

三男二女共九人のお孫さんがあり、長女綾子さん(四〇)は大阪控訴院天野宗太郎氏に嫁ぎ長男男は死亡、次男丈次氏(三五)は神戸で自働車商を営み三男活三氏(三二)は大坂商船あめりか丸の機關長、四男成思氏(三〇)は東

京正金銀行に務め次女シマ子さん(二七)はサンフランシ

スコの美術商柴田一郎氏に嫁ぎいづれも榮えて居る。

(神戸又新日報の記事による)

## たより

○保育實習生二十四名、この三月卒業、親もとを離れて愈々一人だちとなりました。何かと皆様方のお世話さまになることゝ存じます。何分よろしくお願ひいたします。

○主事のことばもう止めようと思ひました。がこればかりはと存じまして。それは或る會で餘興に是非業平朝臣になるべき人が入用、校長は直ちに倉橋主事を選定、事の意外に呆氣にとられた主事も、「どうして、なか／＼大したものと附言され

ましては自信が出たやうでした。さあ、

それ以來冷かされるのなんのつて、とこ

ろが古往今來稀に見る業平に擬せられる

ことは満更でもない様です。その後今

業平氏、ふさはしき小町もがなと見まは

したところ、これは／＼ふとつちよ小町

に瘦せ小町、喰ひしんぼ小町に眞黒小町

と、つく／＼と味氣なさに、中野なる千

光の里にてひたすら思ひを詠歌によせて

居られるさうでございます。

○同じ會にて。及川保母はやはり校長より

「及川さんはなか／＼姿がいゝです、肥り

すぎでもなし、瘦せてもぬす、まあ中肉

中………」とほめられました。あいにく

この中………は、はつきり聞えませんでした

したが。上に業平主事、中肉中………保

母をいたゞいて保育道にいそしんでゐる

ことは、願つてもなき仕合せと保母一同

話しあつたことでございます。

○今年は春雨と名のみうるはしき降りの日

多く、いつ迄もお寒うございます、みな

様お大事に。(新庄)